

横浜市栄区セーフコミュニティ

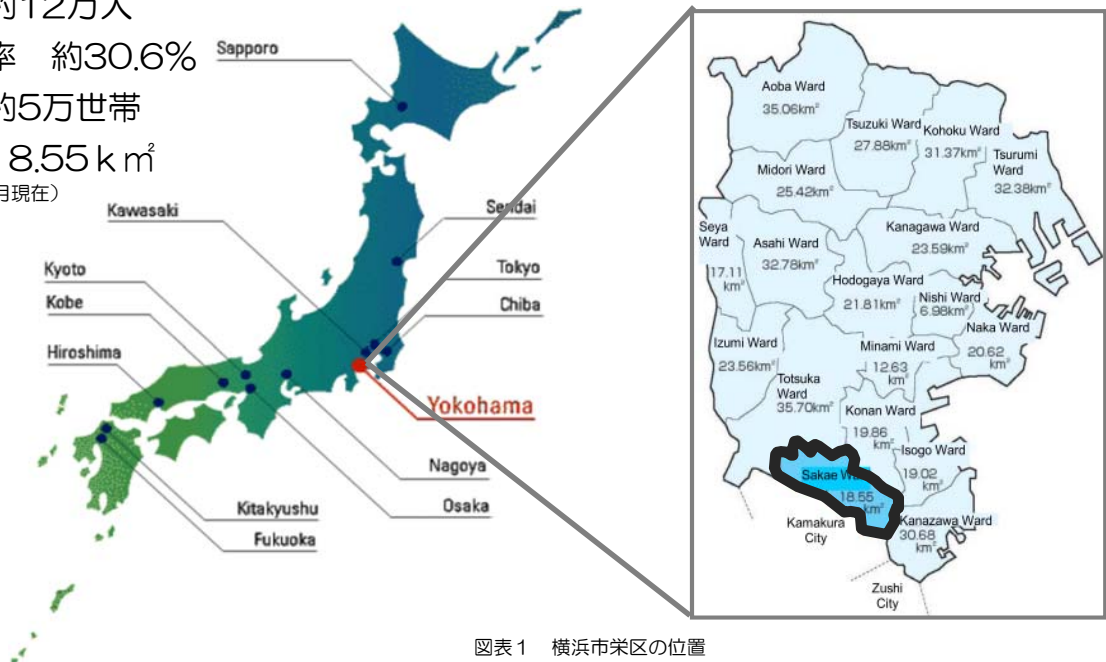
# 概要説明

栄区副区長 見上 正一



## 栄区の概要

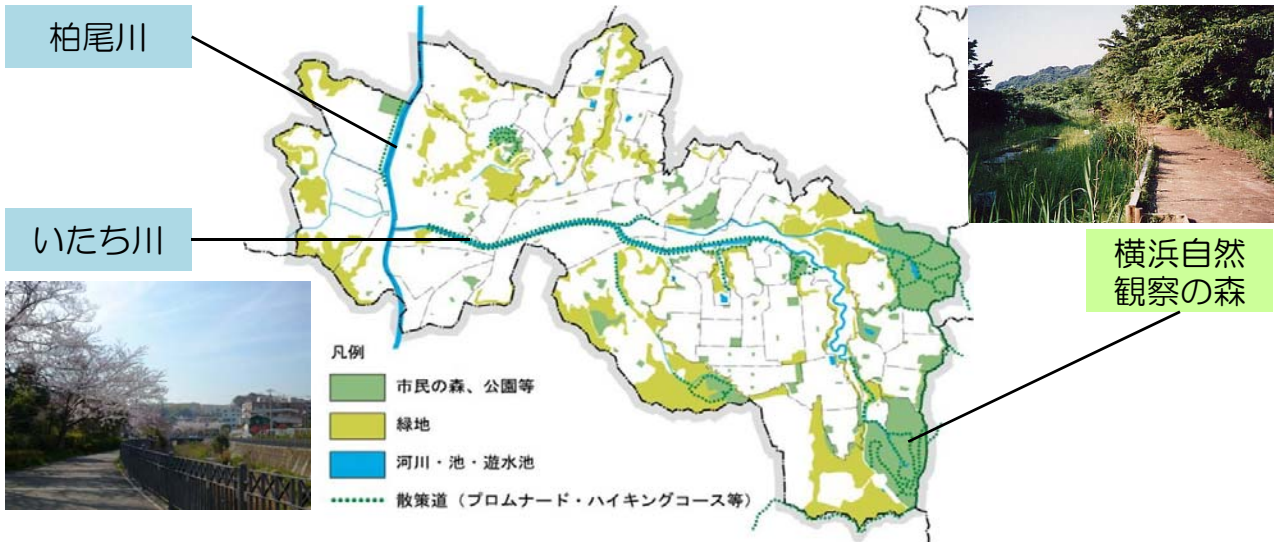
- 人口 約12万人
- 高齢化率 約30.6%
- 世帯 約5万世帯
- 面積 18.55 km<sup>2</sup>  
(2018年1月現在)



図表1 横浜市栄区の位置

# 豊かな水と緑の環境

- 区の東部には、「横浜自然観察の森」など、大規模で良好な自然が残る
- 区の中央をシンボルリバー「いたち川」が流れる
- 緑被率は40.6%で市内18区中第2位

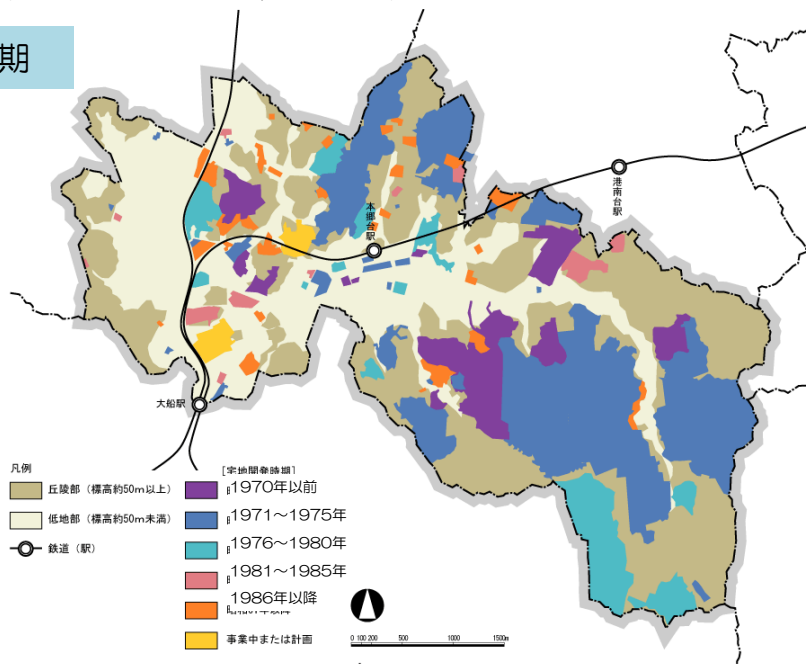


3

# 1960～70年代の大規模宅地開発

- 1960～70年代にかけて大規模な宅地開発が行われ、住宅街に変貌

## 宅地開発の時期



図表3 宅地開発の時期  
(出典：栄区区政推進課)

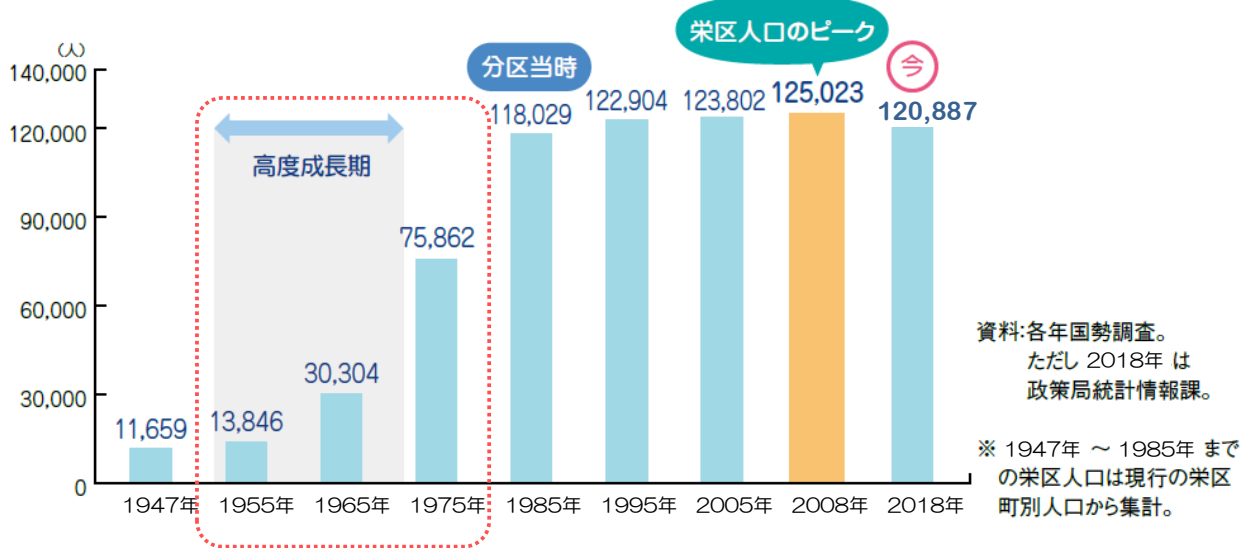
4



# 区内人口の推移

- 宅地開発により、1960～70年代に人口が急増
- 2008年をピークに人口は減少傾向

(各年10月1日現在。ただし、2018年は1月1日 現在。)



図表4 区内人口の推移  
(出典:栄区総務課統計選挙係)

# 栄区の人口3区分の推移

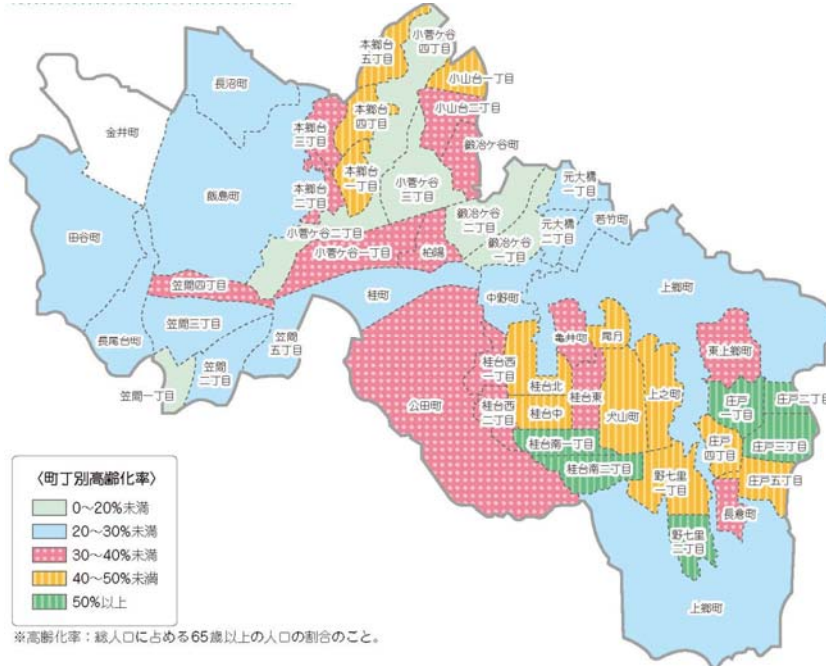
- 0歳から14歳の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は減少傾向
- 65歳以上の老年人口は増加しており、高齢化率  
(全人口に占める65歳以上の人口の割合)は10年でおおよそ8%上昇している



図表5 人口3区分の推移  
(出典:横浜市統計ポータルサイト 2009年～2018年)

# 町丁別高齢化率

町丁別高齢化率を見ると、既に高齢化率50%を超えている地域もある

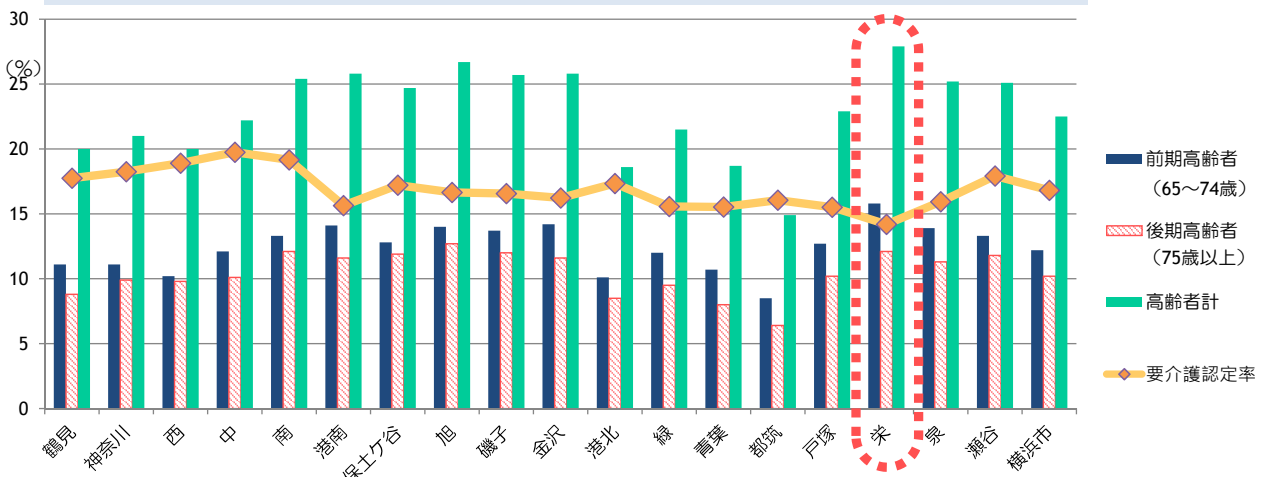


図表6 町丁別高齢化率  
(出典：栄区総務課統計選挙係 2017年9月30日時点)

# 元気な高齢者が多い区

- 栄区の高齢化率は横浜市18区の中で1位(30.6%)
- 要介護認定率(\*)は市内で最も低く、元気な高齢者が多い(栄区14.2%、横浜市16.8%)

(\*) 要介護認定率とは  
介護保険を受けるにあたり、要介護・要支援と認定された人の割合



図表7 横浜市各区の高齢者数と要介護認定率  
(出典：横浜市健康福祉局高齢健康福祉部 区別高齢者人口 2014年9月30日時点)

# 地域コミュニティを支える 自治会・町内会

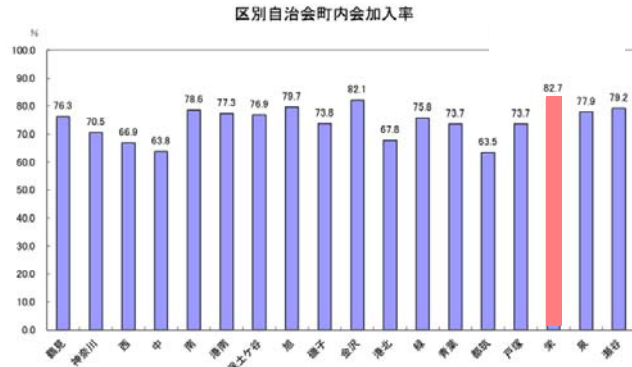
## 自治会・町内会

（住民が世帯ごとに参加し、住民同士の親睦や地域活動を行うための自治組織）…88

## 連合町内会（自治会・町内会が複数集まり連携、交流するための組織）…7



図表8 連合町内会地図  
(出典：栄区地域振興課)



図表9 区別自治会町内会加入率  
(出典：横浜市民局市民協働推進部 2017年4月1日時点の自治会町内会加入状況)

**自治会・町内会加入率 82.7%**  
(横浜市内第1位)

## 区内の外傷による死亡数

- 0歳～14歳の死因は不慮の窒息、不慮の溺死・溺水が多い
- 15歳～74歳までの幅広い世代で、自殺が死因の第1位
- 75歳以降の後期高齢者の死因は溺死・溺水が第1位

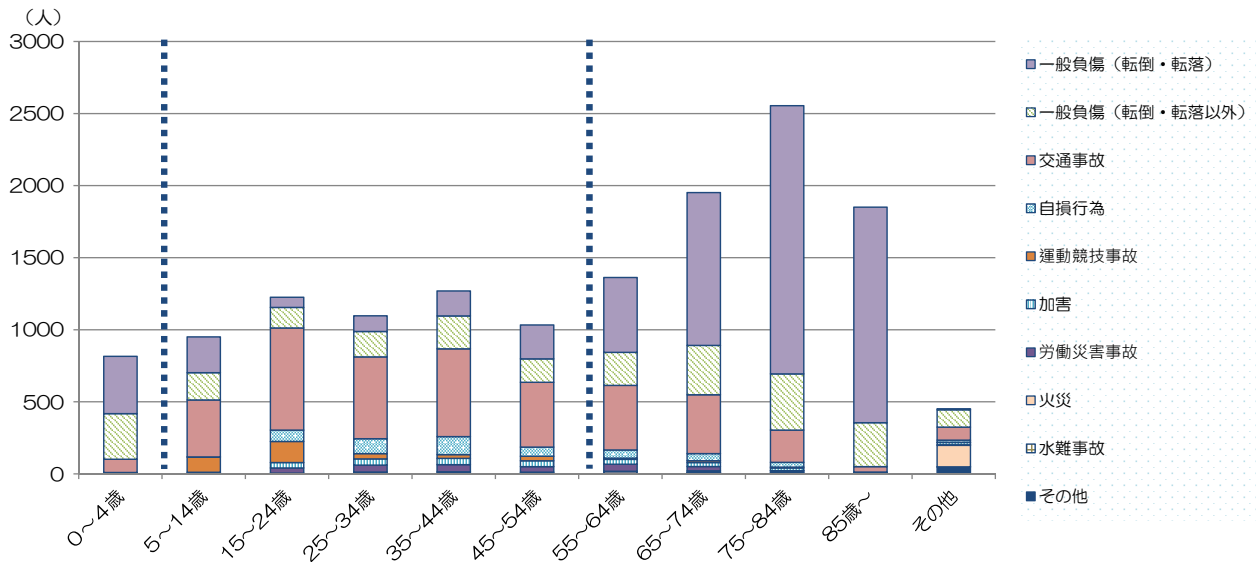
	1位	2位	3位
0～4歳	不慮の窒息	—	—
5～14歳	不慮の溺死及び溺水	不慮の窒息	—
15～24歳	自殺	交通事故	転倒・転落、 その他の不慮の事故
25～34歳	自殺	交通事故	その他
35～44歳	自殺	その他	交通事故
45～54歳	自殺	その他	交通事故
55～64歳	自殺	不慮の溺死及び溺水	—
65～74歳	自殺	不慮の溺死及び溺水	転倒・転落
75～84歳	不慮の溺死及び溺水	転倒・転落	自殺
85歳～	不慮の溺死及び溺水	不慮の窒息	転倒・転落
全体	自殺	不慮の溺死及び溺水	その他

図表10 区内の外傷による死亡数  
(出典：人口動態統計 2007年～2016年)



# 外傷による区内の救急搬送の状況

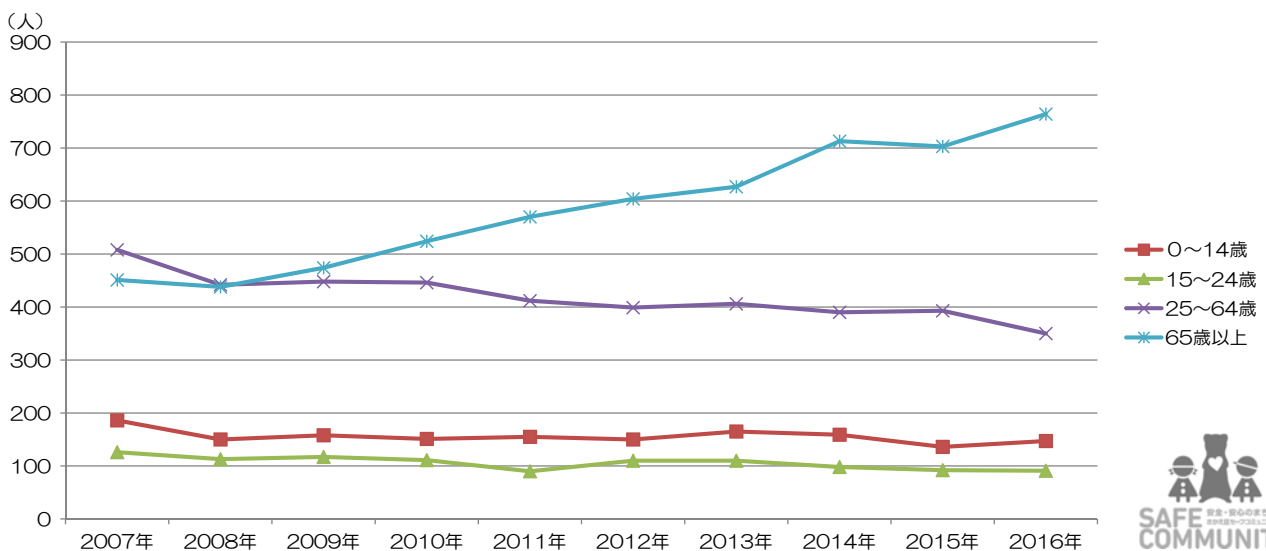
- 外傷による救急搬送件数は、0歳～4歳の乳幼児及び55歳以上について、転倒・転落が最も多くを占める
- 5歳～54歳までの幅広い年齢で、交通事故が救急搬送件数第1位



図表11 外傷における区内の救急搬送の状況  
(出典：救急搬送データ 2007年～2016年)

# 外傷による救急搬送件数の年代別件数推移

- 区内の外傷による救急搬送件数を年代別に見ると、高齢化に伴い65歳以上の件数が増加傾向にある
- 64歳以下の救急搬送件数については、横ばいか減少傾向



図表12 救急搬送件数の年代別件数推移  
(出典：救急搬送データ 2007年～2016年)



# セーフコミュニティ導入経緯

急速に進む高齢化及び人口減少への対応策として

増加傾向にある高齢者の救急搬送件数の抑制をはじめとする

## 区内の事故・けが予防

PDCAサイクルによる  
取組管理を行うことで、  
課題解決への意欲が向上し

区の強みである  
地域コミュニティの力を活かした

地域コミュニティの  
さらなる活性化

分野横断的基盤を形成することで

安全・安心なまち  
としてのブランド形成

多岐に渡る施策の  
統合的かつ効果的推進

13

## 認証取得までの経過

時期		内容
2010年	3月	活動開始を表明
	6月～9月	栄区セーフコミュニティ推進協議会 及び8つの分科会を設置
2011年	6月	中間審査
2013年	1月	本審査
	10月	認証（認証記念式典を開催）

図表13 セーフコミュニティ認証取得までの経過

14

# セーフコミュニティ認証取得 (2013年10月5日)



図表14 セーフコミュニティ認証記念式典  
(2013年10月5日)



## 認証取得後の経過

時期		内容
2014年	4月	重点取組の追加を実施
	10月	セーフコミュニティフォーラムを開催
	10月	セーフコミュニティ月間（10月）設定
2015年	7月	防犯対策分科会を設立
	10月	セーフコミュニティフォーラムを開催
2016年	4月	各分野別分科会の指標見直しを実施
2017年	1月	傷害サーベイランス分科会の体制見直しを実施
	9月	再認証事前指導



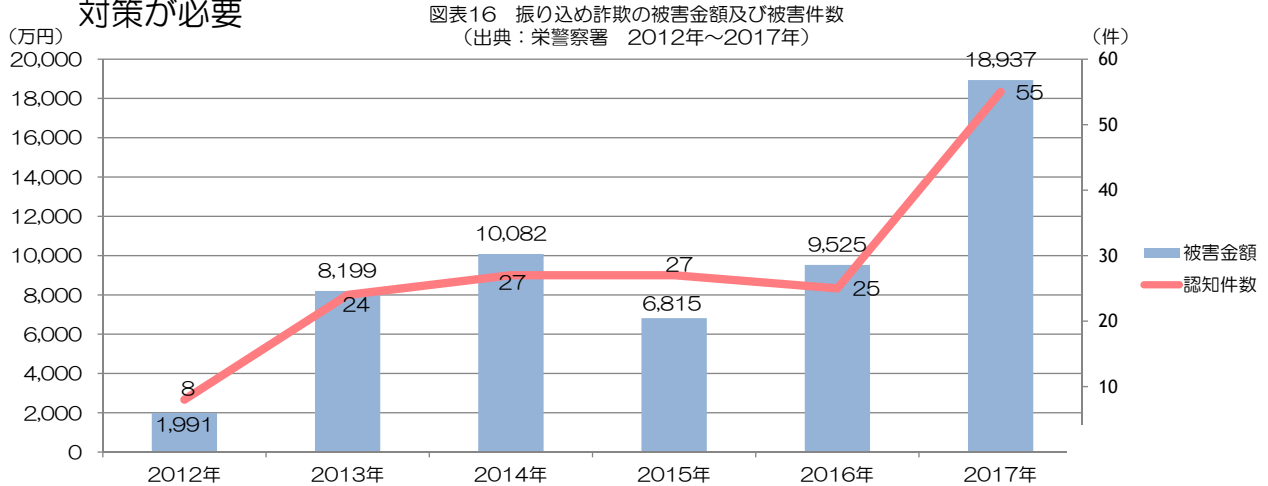
図表15 セーフコミュニティ認証取得後の経過



# 防犯対策分科会の設立

□ 近年、区内で振り込め詐欺の被害金額が急増

→ 金銭的なダメージの他、心の傷を受けたことによる自死等を未然に防ぐための対策が必要

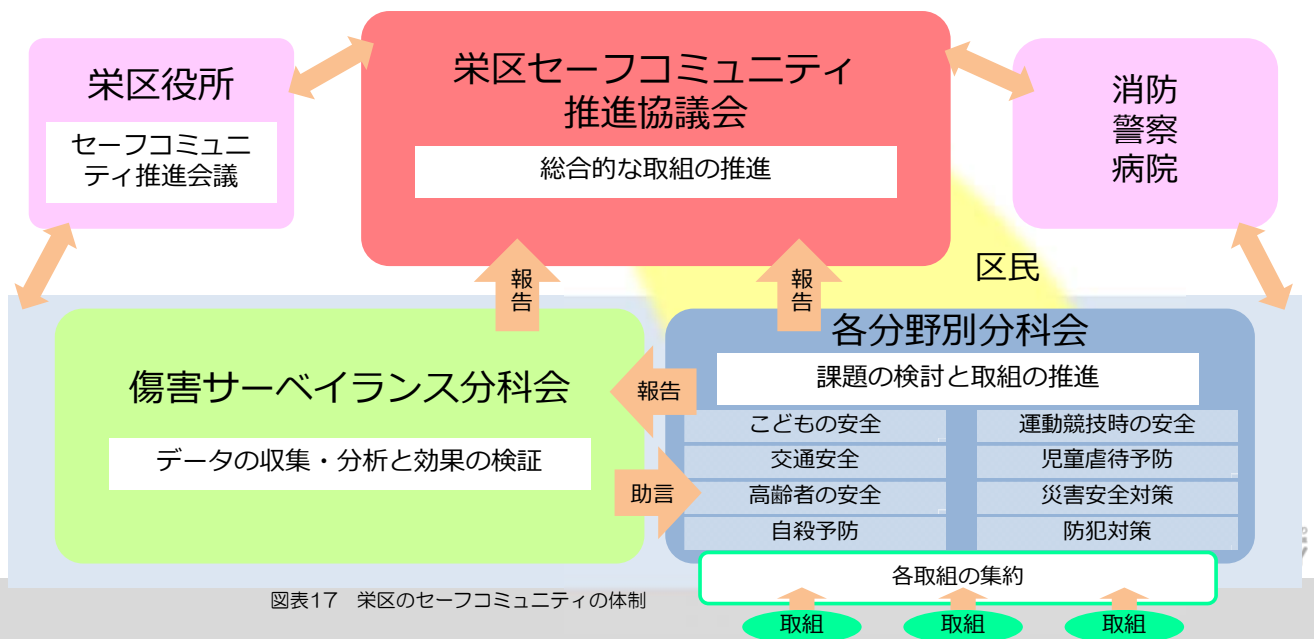


2015年7月、新たに防犯対策分科会を設立

# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

指標1

分野の垣根を超えた、協働を基盤とした推進組織を設置する



図表17 栄区のセーフコミュニティの体制

# セーフコミュニティ推進協議会

- 設置：2010年7月
- 会長：栄区長
- 委員数：27名（27団体）
- 役割：セーフコミュニティ活動の基本方針の決定  
セーフコミュニティ活動の推進と情報共有  
セーフコミュニティ活動の普及・啓発



図表18 セーフコミュニティ推進協議会 19

## セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

### 指標2

両性・全年齢、あらゆる環境・状況をカバーする  
プログラムを継続的に実施する

		こども（0～14歳）	青年（15～24歳）	成人（25～64歳）	高齢者（65歳～）
不慮の要因	家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育者への啓発</li> <li>・訪問運動指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の実施</li> <li>・犯罪発生情報の配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の実施</li> <li>・犯罪発生情報の配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒予防の取組、住環境改善の普及</li> <li>・ヒートショック対策</li> </ul>
	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予知トレーニング</li> <li>・小・中学校の遊具の点検</li> </ul>	-	-	-
	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の遊具の点検</li> <li>・予防講習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防講習会</li> <li>・ウォーキングの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防講習会</li> <li>・ウォーキングの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防講習会</li> <li>・ウォーキングの推進</li> </ul>
	交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車ヘルメット着用啓発</li> <li>・はまっ子交通あんぜん教室</li> <li>・スクールゾーン対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種啓発キャンペーン</li> <li>・交通安全マップの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種啓発キャンペーン</li> <li>・交通安全マップの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者交通安全教室</li> </ul>
	災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所への防災講演会</li> <li>・学校と連携した防災訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な防災訓練の実施</li> <li>・地域避難所の設置及び訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な防災訓練の実施</li> <li>・地域避難所の設置及び訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者支援の取組</li> <li>・地域避難所の設置及び訓練</li> </ul>
意図的要因	暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかえっ子の笑顔ひろげ隊</li> <li>・こんにちは赤ちゃん訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV相談支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV相談支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民による見守り</li> <li>・認知症サポーター</li> </ul>
	自殺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発活動の展開</li> <li>・ハートフルサポーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発活動の展開</li> <li>・ハートフルサポーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発活動の展開</li> <li>・ハートフルサポーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民による見守り</li> <li>・ハートフルサポーター</li> </ul>

（取組について主なものを抜粋）

図表19 セーフコミュニティ指標2 マトリクス

# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

## 指標3

ハイリスクの集団・環境および弱者を対象としたプログラムを実施する

No	ハイリスクグループ	ハイリスクグループに設定した背景	ハイリスクグループを対象としたプログラム
1	救急搬送件数が多い0～4歳までの乳幼児	0～14歳までのこどもの中で救急搬送件数が多く、中でも転倒・転落が39%を占める	・養育者への啓発
2	全年代における運動競技実施者	栄区での運動競技中の事故は、事故種別で最も多い一般負傷・交通事故を除くと第2位	・けが予防講習会の開催 ・ウォーキングの推進
3	交通事故による死傷者が多い15歳以下の若年層	横浜市全体と比較すると、15歳以下の若年層の交通事故による死傷者割合が高い	・自転車ヘルメット着用啓発 ・スクールゾーン対策 ・はまっ子交通あんぜん教室
4	児童虐待の被害者となりえる乳幼児・児童	児童虐待対応件数が増加傾向にあり、2016年の対応件数は5年前のおよそ3倍	・さかえっ子の笑顔ひろげ隊 ・栄区虐待防止連絡会 ・こんにちは赤ちゃん訪問
5	65歳以上の高齢者	栄区全体の救急搬送件数のうち55%は65歳以上の高齢者	・転倒予防の取組、住環境改善の普及 ・ヒートショック対策の普及 ・地域の住民による見守り活動
6	全年代における災害時要援護者	過去の災害における災害時要援護者支援の重要性と、地域における取組の実施状況（2割が未着手）	・災害時要援護者支援の取組拡大
7	自殺未遂者や自殺に傾く方	外傷による死者数のうち、15～74歳の青年・成人について自殺が第1位	・メンタルヘルス支援ネットワーク会議 ・メンタルヘルス従事者専門研修 ・自殺未遂者支援対策
8	振り込め詐欺の被害者となりえる高齢者	被害金額が増加傾向にある振り込め詐欺の被害者のうち、96%を60歳代以上の高齢者が占める	・振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

(取組について主なものを抜粋)

図表20 セーフコミュニティ指標3 一覧

21

# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

## 指標4

根拠に基づいた取組を実施する

### 情報収集

- ・人口動態統計
- ・救急搬送記録
- ・各種アンケート
- ・警察統計

### 課題抽出

課題	データ
こどもの安全対策	0～4歳の乳幼児の救急搬送件数が多い
運動競技時の安全対策	運動競技事故による救急搬送件数が多い
交通安全対策	幅広い年代で、交通事故による救急搬送が多い
児童虐待予防	児童虐待把握件数の増加
高齢者の安全	高齢者の救急搬送件数の増加
災害安全対策	東日本大震災で区民の災害に対する意識が大きく向上
自殺予防	外傷による死者数は幅広い年代で自殺が1位
防犯対策	振り込め詐欺の認知件数・被害金額が大きく増加

### 分科会設置

- ・こどもの安全
- ・スポーツ安全
- ・交通安全
- ・児童虐待予防
- ・高齢者の安全
- ・災害安全対策
- ・自殺予防
- ・防犯対策

図表21 セーフコミュニティ指標4 流れ

22

# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

## 指標5

外傷が発生する頻度とその原因を記録する  
プログラムを実施する

□ 基本となる以下のデータを収集、分析。

その他、必要に応じて分科会独自で収集・分析したデータ等を使用している

No.	名称	実施主体	頻度	調査の内容		
				死亡	傷害	備考
1	人口動態統計	国	毎年	○		外因による死亡に関する情報
2	救急搬送データ ※疾病を除く	横浜市	毎年	○	○	事故やけがによる救急搬送の情報
3	区民意識調査 区民アンケート SCアンケート	栄区	毎年			外傷発生状況、事故やけがに対する不安、事故やけがに対する防止対策に関する情報
4	学校アンケート	栄区	毎年			小・中学生の外傷発生状況、事故やけがに対する不安、事故やけがに対する防止対策に関する情報
5	警察統計	栄警察署	毎年	○	○	交通事故、犯罪、自殺に関する情報
6	小中災害共済 給付データ	日本スポーツ振興 センター	毎年		○	小・中学校における事故やけがに関する情報
7	国勢調査	栄区	5年	○		国、県、市の人口動態、地域特性に関する情報

図表22 セーフコミュニティ指標4 基本データ一覧

## 基本データがカバーする領域

区分	0~14歳	15~64歳	65歳~
死亡	人口動態統計		
重症	救急搬送データ 警察統計 小中災害共済給付データ		
中等症			
軽傷			
ヒヤリハット	学校アンケート	区民意識調査・区民アンケート SCアンケート	

図表23 セーフコミュニティ指標4 基本データがカバーする領域

# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

## 指標6

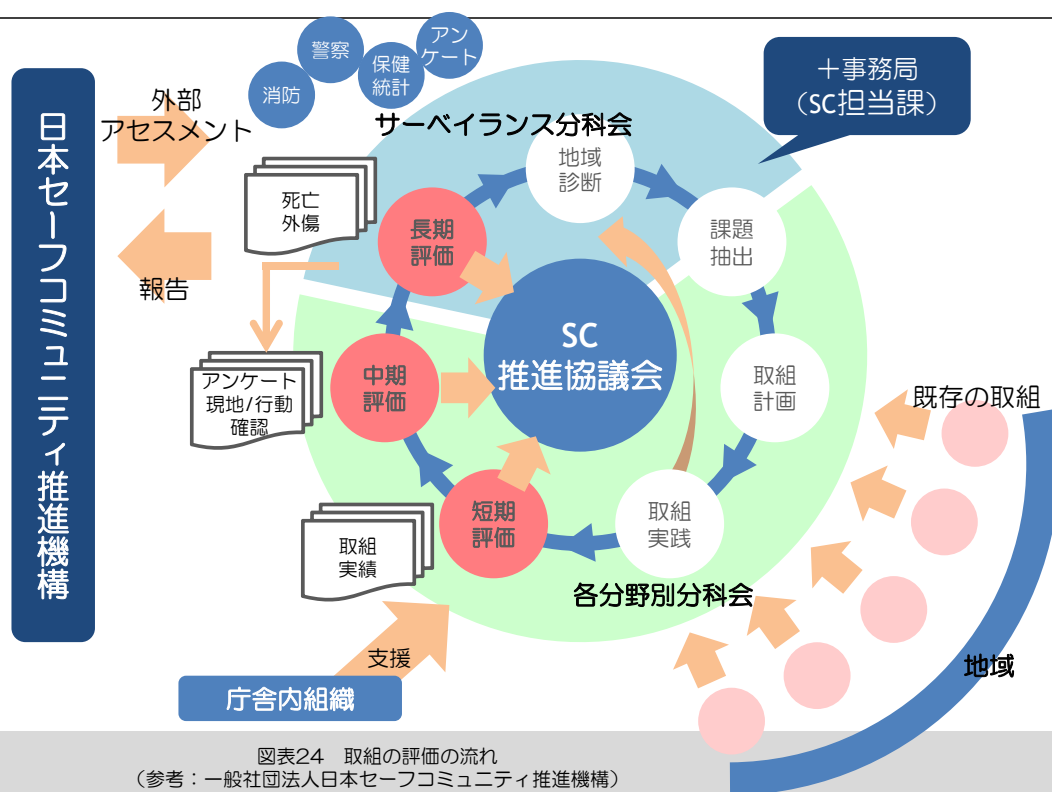
プログラムの内容・実施行程・影響を  
アセスメントするための評価基準を設置する

### 傷害サーベイランス分科会の設置

- 設置：2010年9月
- 委員数：アドバイザーチーム4名、実務チーム7名
- 役割：セーフコミュニティに係るデータの収集・分析  
地域診断  
セーフコミュニティの取組に対する評価  
セーフコミュニティの取組の効果検証  
セーフコミュニティの取組に関する提言



## 取組の評価の流れ



図表24 取組の評価の流れ  
(参考：一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構)





# セーフコミュニティ 7つの指標に基づく取組

## 指標7

国内外のセーフコミュニティネットワークに  
継続的に参加する

### □ 認証前のSCネットワーク 主な参加実績

年月	交流都市	内容	国内・海外
2010年3月	スウォン	第19回セーフコミュニティ国際会議出席	海外
2010年3月	台北	台北国際シンポジウム出席	海外
2010年6月	厚木市	現地審査視察	国内
2010年11月	厚木市	認証式典出席	国内
2011年4月	台北	トラベリングセミナー出席	海外
2011年12月	ファールン	第20回セーフコミュニティ国際会議出席	海外
2012年2月	豊島区	現地審査視察	国内

図表25 セーフコミュニティ指標7 認証前のSCネットワーク  
主な参加実績

27

## 認証後のSCネットワーク 主な参加実績

年月	交流都市	内容	区分	年月	交流都市	内容	区分
2014年5月	釜山	アジア地域SC会議 出席	海外	2016年10月	泉大津市	認証式典 出席	国内
2014年10月	松原市	さかえSCフォーラム 講演依頼	国内	2016年11月	郡山市	事前指導 視察	国内
2014年10月	鹿児島市	事前指導 視察	国内	2016年12月	豊島区	再認証事前指導 視察	国内
2014年10月	厚木市	再認証事前指導 視察	国内	2017年2月	箕輪町	再認証現地審査 視察	国内
2015年2月	北本市	認証式典 出席	国内	2017年5月	箕輪町	再認証式典 出席	国内
2015年2月	十和田市	再認証式典 出席	国内	2017年9月	韓国 世宗市、 平沢市、牙山市、 順天市、公州市	視察受入れ	海外
2015年7月	秩父市	現地審査 視察	国内	2017年10月	松原市	再認証事前指導 視察	国内
2015年7月	厚木市	再認証現地審査 視察	国内	2017年10月	久留米市	再認証事前指導 視察	国内
2015年10月	箕輪町	さかえSCフォーラム 講演依頼	国内	2017年11月	豊島区	再認証現地審査 視察	国内
2015年11月	厚木市	再認証式典 出席	国内	2017年11月	郡山市	現地審査 視察	国内
2015年11月	秩父市	認証式典 出席	国内	2017年11月	亀岡市	再々認証事前指導 視察	国内
2016年2月	甲賀市	認証式典 出席	国内	2018年1月	さいたま市	事前指導 視察	国内
2016年6月	秩父市	合同対策委員会 視察	国内	2018年2月	豊島区	再認証式典 出席	国内
2016年8月	箕輪町	再認証事前指導 視察	国内	2018年2月	郡山市	認証式典 出席	国内
2016年8月	泉大津市	現地審査 視察	国内				

図表26 セーフコミュニティ指標7 認証後のSCネットワーク  
主な参加実績

28

# セーフコミュニティのプロモーション

## プロモーションに取り組む意義

セーフコミュニティとは何か、セーフコミュニティに取り組むとどんな良いことがあるかについて多くの方に「知ってもらう」ことで、セーフコミュニティ活動への参加者がさらに増え、より安全・安心なまちの実感へとつなげる。



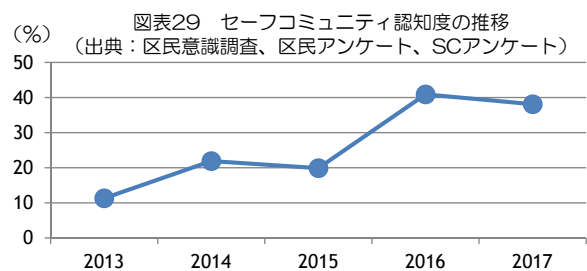
図表27 栄区セーフコミュニティのプロモーション

# プロモーションの課題

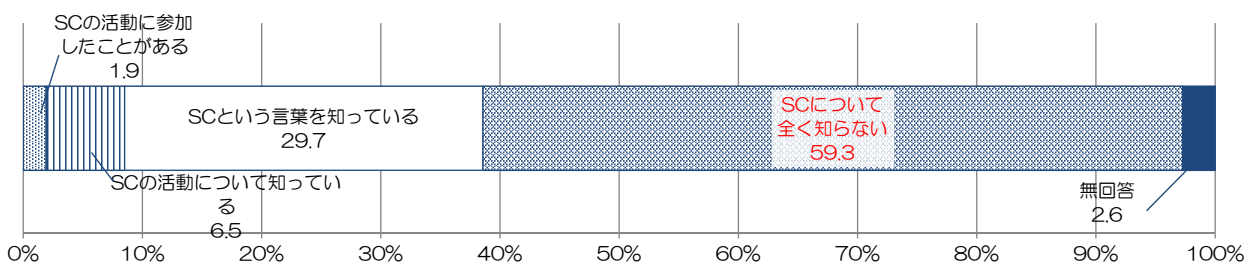
- 2016年度に認知度は40%を超えたが、過半数の区民はセーフコミュニティを認知していない

2013	2014	2015	2016	2017
11.3%	21.9%	19.9%	40.9%	38.1%

図表28 セーフコミュニティ認知度の推移  
(出典：区民意識調査、区民アンケート、SCアンケート)



- セーフコミュニティについて全く知らない人が半数以上を占め、言葉を知っている人が3割弱



図表30 セーフコミュニティ認知度合  
(出典：区民意識調査 2017年度 N=1,393)

# プロモーションの課題

- 居住歴別に認知度をみると、2013年の認証取得後に居住している区民の認知度が低い状況にある。
- 年齢層別に認知度をみると、20歳～30歳代は「セーフコミュニティについて全く知らない」と回答した人の割合が高い。

居住歴	知っている	知らない	未回答
5年未満	22.3	76.8	0.9
5～10年	34.4	65.6	0.0
10～15年	37.9	60.1	2.0
15年～20年	33.1	66.1	0.8
20年～30年	40.9	58.2	0.9
30年～40年	44.0	54.7	1.3
40年以上	41.3	54.9	3.8

図表31 居住歴別セーフコミュニティの認知度

年齢層	割合
20～24歳	68.5
25～29歳	87.8
30～34歳	59.2
35～39歳	71.4
40～44歳	53.9
45～49歳	63.8
50～54歳	62.2
55～59歳	62.5
60～64歳	63.0
65～69歳	56.2
70～74歳	46.4
75～79歳	58.9
80歳以上	58.3

図表32 セーフコミュニティについて全く知らないと解答した人の年齢別割合 31

※出典：ともに区民意識調査 2017年度 N=1,393)

## 今年度のプロモーション活動

### 1 露出の強化

- 現地審査はじめ再認証にかかるイベント、国際会議の厚木市開催等、セーフコミュニティに関するイベントが数多く開催される年
  - ・ 広報紙への掲載、イベントでのブース出展
  - ・ 懸垂幕やエアポップの掲出
  - ・ 区役所のショーケース活用
  - ・ 区民の身近な施設でのパネル展示等

### 2 20～30歳代を対象とした取組

- こども向けの啓発グッズ配布やイベントの実施により親世代の認知につなげる
  - ・ 区内医療機関（小児科、婦人科）と連携したPR
  - ・ 小・中学生を対象としたSC絵画コンクールの実施
  - ・ 区内のスーパー、コンビニエンスストアと連携したPR



# 認証取得後の成果

## 新たな課題の発見と対策

データ分析により新たな課題を発見し、対策を開始することができた  
(ヒートショック対策など)

## 新たな協働の基盤形成

分科会の形成により、同じ分野に携わりながらバラバラに活動していた  
区民、関係機関、行政機関が新たに連携し、区として対策を行う組織基盤  
ができた

## 安全・安心なまちとしての誇り

国際認証の取得により、区民や関係機関職員、行政機関職員に、  
セーフコミュニティ都市としての誇りが芽生えた

# 認証取得後の課題

## 事故やけがのデータの入手

行政区という特性上、栄区に特化したデータがとりづらいことや、  
救急搬送まではいかない軽度のけがについてのデータの入手が困難

## 認知度の伸び悩み

認証から5年目だが、  
過半数の区民がセーフコミュニティを認知していない

## 分科会同士の連携

対象者が重複する分科会もあるが、現在はあまり連携ができておらず、  
より効率的・効果的に取組を進めるためには横の連携が必要

# 今後の方向性と展望

## アンケート等によるデータ取得

区民を対象としたアンケート等の実施により、軽度のけがやヒヤリハット、効果の実感等のデータを取得する

## プロモーションの推進

セーフコミュニティの良さを伝え、活動者を増やすとともに、より主体的な活動へとつなげる

## 分科会同士の連携

2017年度には、共通の啓発物品作成等の連携が生まれたため、合同分科会開催等一層の連携を進め、効率的な取組の推進を目指す

## 行政施策への反映

関係機関から区の相談窓口へつなげるための仕組みづくり等  
新たな行政施策へとつなげる

35

# ご静聴ありがとうございました



こどもの笑顔あふれるコミュニティを目指して

36